

事業名称	上野池之端地域から推進する近代日本文化国際発信プロジェクト		
実行委員会	地域共働近代日本文化国際発信実行委員会		
中核館	横山大観記念館		
	住所	〒110-0008	
	TEL	03-3821-1017	FAX 03-3821-1057
	ホームページ		
構成団体	台東区教育委員会 茅町町会 東京SGGクラブ		
事業開始時点の課題分析	<p>第一回文化勲章受章者の横山大観旧宅及び庭園は、平成 29 年 2 月に国の文化財である「史跡及び名勝」に指定されている。大観は明治 41 年から上野池之端に居住しており、現存の邸宅は東京大空襲で全焼した家を、全財産をかけ昭和 29 年に、部屋の明かりから庭園の樹木まで大観の意匠をこらして再建したものである。大観の、「私の死後この地を個人財産としてではなく、公的な財産として日本美術界のために役立ててほしい」という遺言により、横山大観記念館が私設され、この貴重な文化財を保全をしながら維持し、大観の在りし日のままの形で広く一般に公開している。大観作品は、国内はもとより、海外の展覧会出品活動等により諸外国においても評価が高く、日本画壇を代表する画家として認知されており、大観作品が生み出されたこの邸宅やここで行われた国際文化交流についての調査・研究などを国内外に発信することで、文化資源として活用し、地域振興・観光振興等への対応が期待される。しかしながら、老朽化が進む建物と保全に予算がかかることなどから、求められている地域におけるアウトリーチ活動や、国際発信ができていないとは言えず、波及効果も限定的である。今後、上野池之端を代表する文化施設である横山大観記念館を活用し、近代日本文化の芸術性を国際発信するため、あらゆる機会をとらえた取り組みをより積極的に行うことが求められている。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は、横山大観記念館が中心となり、台東区、池之端地域と共働し、内閣府、外務省などとの連携も行い、国内外の多くの人々に、我が国の歴史的・文化的な魅力や特色ある地域文化に直接触れ、深く日本を理解してもらうことである。そのため、国内外に、積極的に出ていき、日本の文化財や伝統等の価値を広く発信する施策を行うことにより、日本や池之端地区の訪問に関心を持つ人の増加につなげる。また、地域と共働するには、地域の人々が近代日本文化や上野池之端地域の魅力を認識する土壌の醸成が不可欠である。このような諸外国との双方向の交流により、国際相互理解を深めることで、日本の文化芸術や自らが住む地域の価値を再認識し、誇りに思う文化芸術立国の実現に資することである。</p>		
事業概要	<p>平成 30 年は、明治元年から起算して満 150 年の年に当たる。そして横山大観の生誕 150 年でもある。この上野池之端地域は、明治時代の幕開けとともに文化の中心地として栄えてきた場所である。この記念すべき年に、明治以降の近代日本文化の歩みに目を向けてのプロジェクトを実施する。</p> <p>○グローバル拠点としての美術館の機能を持たせるための取り組みとして、外国人向けに、この上野池之端地域や日本文化の魅力をより理解できるよう、横山大観記念館において放映及びネット配信できる多言語ビデオを作成する。また、記念館紹介の多言語リーフレットの作成を行う。</p>		

	<p>○外国人だけでなく、地域の様々な人々にこの地や文化の魅力を発信するためのアウトリーチ活動として、ワークショップを開催してより能動的に発信していく。</p> <p>○横山大観記念館において開催される横山大観生誕 150 年記念展」に連動し、地域と近代日本文化の芸術性を国際発信するために多言語による「横山大観生誕 150 年記念講演会」を開催する。</p> <p>○2018 年のフランス・パリを主な舞台とし、日本文化の粋を集め、その多様かつ普遍的な魅力を発信する大型日本文化紹介企画「ジャポニスム 2018」が開催される。かつてパリ万博等において大観作品が出品されたこともあり、これを好機ととらえ、内閣府、外務省、国際交流基金と連携して、パリから世界へ近代日本文化と地域の魅力を発信するための講演会を実施する。それにより、文化振興のみならず、地域の紹介や訪日への関心の高まりを促すなど地域振興・観光振興という役割も果たす。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>横山大観記念館が地域のグローバル拠点として、地域や関係機関と共働しての様々な活動により、近代日本文化と地域の魅力を積極的に国内外へ発信する取り組みを行った。横山大観記念館として公開している史跡及び名勝横山大観旧宅及び名勝の魅力を伝える多言語ビデオやリーフレットを作成することで、来日外国人が日本の文化財への興味や理解を深める一助とできた。また、今年度事業にあたり求められた、他の美術館等の連携という件に関しては、補助事業としての申請はしていなかったが、実行委員会が文京区ふるさと歴史館（博物館）と連携して、「史跡めぐり・横山大観ゆかりの地を巡る(50名参加)」開催したり、「文京区歴史講演会・横山大観・芸術維新に臨んだ男たち(300名参加)」に資料提供などで協力するというところを行い、そのニーズに対応できた。ワークショップ(26名×2回)では東京藝術大学はもちろん、谷中の日本美術院や八王子の東京富士美術館と連携して、講師の先生を迎えて開催することができた。その結果、台東区上野地区だけでなく、文京区や他の地域との広域の連携が行われ、近代日本文化の価値の再発見や理解を広めるという目的の事業を、より広い地域にシームレスに展開をすることができた。さらに、パリでのジャポニスム2018参加企画講演会</p>

<p>(86名参加)は大変好評で、フランスの芸術アカデミーであるサロンの副会長が参加され、今まで知らなかった日本への理解を深めていただけた。その他講演会に参加した方が池之端の記念館への来訪につながったりと、日本人及び外国人観光客の増加を促し、段階的に地域活性化に貢献できた。ワークショップ、講演会における参加率は非常に高く、またアンケートの満足度も、報告書に記載のように非常に高く、次回の開催を期待する声が多くあった。</p> <p>このように、国内外へ向けて日本文化の魅力を発信するという取り組みは、様々な角度をもって多様な事業を行ったことにより、非常に成果をあげられた。しかしながら、このような取り組みは、継続してして続けることによってその真の成果があげられるものである。オリンピックイヤーを来年迎えるにあたり、今後も引き続き継続して実施することが今後の課題とされる。</p>
--

【事業実績】

< Japonismes2018 参加企画「横山大観の真実」講演会 >

講演会概要-----

講演者:横山浩一

フランス語通訳:中村佳代子 司会:横山優子 受付:住田伊美 田中享生

Conférence La vérité de YOKOYAMA TAIKAN

会場:Hôtel Napoleon Paris

《Friedland room》 40 Avenue de Friedland, 75008 Paris,

会期:2018年11月26日 16:30-18:00 (開場 15:50、閉場 19:00)

定員:90名(応募定員越えのため抽選) 参加実数 86名

横山大観(1868-1958)は、37歳の時にパリで展覧会を開催したのをはじめ、海外の展覧会に多くの作品を出品しています。大観は「昭和になって日本美術の海外進出といわれるが、こうした意味では私は先駆者のひとりだ(大観画論)」と自分でも述べているように、若いうちから語学を学び海外へ日本画のすばらしさを伝える活動を行ってきました。その活動は高く評価され、53歳でフランスサロン(Société nationale des beaux-arts)会員、62歳の時にレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受賞しています。さらに、海外で得た経験を日本に伝え、世界に通用する日本画の創造に取り組みました。

しかし、現在その活動はヨーロッパではあまり知られていません。近代日本画の巨匠と呼ばれる大観について、その創作活動を基軸に、様々な文化人との交流や逸話、作品に対する想い、代表作品の解説などを交えて、フランス語逐次通訳で紹介しました。講演会の効果を高め、より多くの人々が日本文化に対する理解を深め、興味を持ってもらえるよう、大観の代表作の掛軸(レプリカ)を会場で展示するほか、実行員会メンバーである台東区教育委員会作成の史跡及び名勝横山大観邸宅及び庭園ビデオの上映を行いました。

前々日の「黄色いジレ」のデモの影響で、シャンゼリゼ周辺の店舗などが破壊されていたことや、雨天だったにもかかわらず、多くのかたにご来場いただき、会場はほぼ満席、皆様熱心に講師の話に聞き入りました。

また、上野池之端の横山大観記念館の紹介ビデオを講演会開始前の上映や、掛け軸の展示、お配りした各種の資料も大変好評でした。

広報展開

●欧州における個人情報保護法により、日本への個人情報を提供することができなくなったため、当初予定していた個別のご案内を出すことができなかつたためフランス語、日本語のチラシを作成し、パリの主要美術館、在仏日本人会、JNTO 等に送付し、配布及び告知を依頼。

●JAPONISMES2018 ホームページのご案内(日・仏・英)

●JETRO パリ事務局の協力により、メールによる広報。CEFJ HP での掲載

●「カルチャー日本」での掲載



●JAPONISMES2018FACEBOOK



★会場入り口案内



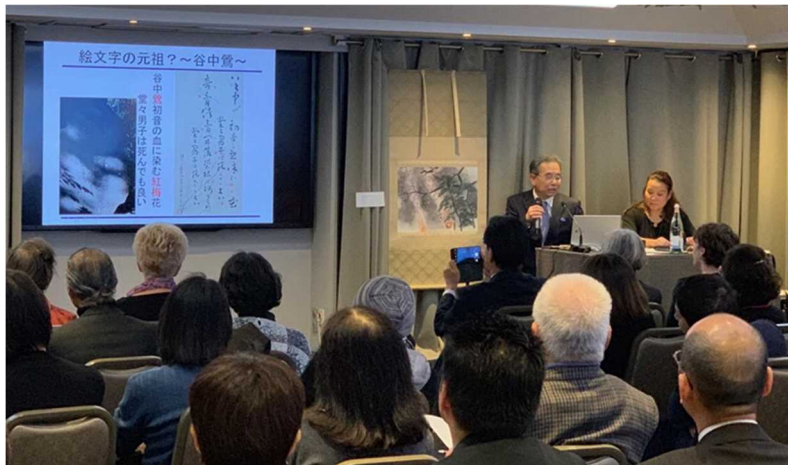
★講演会開始前の記念館案内ビデオ上映



★講演会の様子

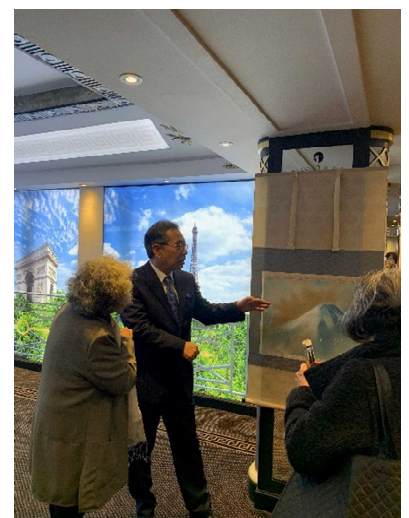


★横山浩一氏と中村佳代子氏

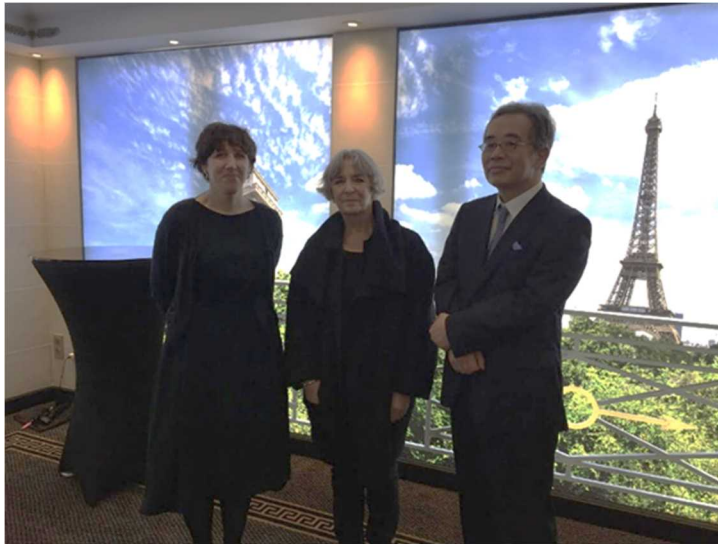


(講演内容に関しては別紙1参照)

★講演後は、質問が多数ありました。講演会後も、大観の代表作「霊峰飛鶴」の掛軸前で個別に質問を受けました。



★フランスサロン(Société nationale des beaux-arts) 副会長(中央)



まとめ-----

講演会は大変好評で、講演終了後横山氏のもとやスタッフのもとへ多くの来場者が集まり、活気に沸いた場内でした。

また、会場には日本から大観代表作のレプリカ掛け軸(シルクスクリーン)を 3 本展示に関しては、本物の掛け軸を見たことない方も多く、大変興味深く御覧になり、「日本に行って実物を見てみたい」「レプリカと言っても素晴らしいですね、日本文化に興味が一層わきました」「3 本は少ない。もっと見たいから展覧会を開催してほしい」「次はいつですか？」などのお声を伺いました。

その他、後日、寄せられたコメントを紹介します。

「日本でこれだけ有名な画家であったのに、フランスではあまり知られていなかったことにおどきました。本日来られたフランス人の方からも、これほどの方とは知らなかったという言葉があちこちで聞かれました。ゆっくり調べてみたいという方が多かったので、この企画が非常に影響を及ぼしたと確信した次第です。今日のお話は本当に引き込まれるように聞かせて頂きました。楽しかったです。知らなかったことばかりでした。お話を伺うと、まるで、今そこにいるのではないかと勘違いしそうでした。私も今一度、調べてみたいと思います。(K.M 氏)」

「昨日は講演会の成功、誠にとおめでとうございます。事前のご準備から当日の運営まで、色々と大変でいらっしやっただかとお察し致しますが、あのような素晴らしい会を開かれたことに感銘を受けました。私個人としましては、今回このような貴重な機会を頂戴し、感謝しております。誠に失礼ながら、横山大観さんについてほとんど存じ上げておりませんでしたが、昨日の講演会を通して、大観さんの世界を切り開いていこうとする開拓精神や、いつまでもあくなき向上心を持って何かに取り組んでいく姿は 1 人の男として学ばせてもらうことが多々ございました。今後益々のご発展を祈念致しております。(T.N 氏)」

また、後日フランスの講演会に来られて感動し、日本文化に大変興味を持ったというB氏が、休暇先を日本に決めて、記念館に来館されました。

実行委員会としては、今回の講演会の成功を経て、日本文化を伝える手段として講演会が大変有効な手段であることを実感できました。そして、海外からの来日、来館を待つだけでなく、積極的に海外へ行き、講演会を通じ世界への発信を行う必要性を強く感じました。今後も、あらゆる機会を通じてこのような事業を継続して実施していく予定です。

<ワークショップ・龍を描く>

ワークショップ概要

横山大観記念館の学芸員佐藤志乃氏が「大観の描く龍」についての講演を行いました。横山大観の創作活動や交流、大観の描いた様々な龍の話を通じて、この地の魅力や日本画について地域の人々に伝える内容です。

講演会后、日本美術院の清水由朗氏、永吉秀司氏らにより、「龍の特徴」「墨について」の講義を行い、実際に日本画を描く方法の指導が行われました。作画にあたっては、大観の描いた龍をお手本にし、日本絵画の奥深さを感じられるよう、紙は大観おかかえの表具師寺内遊神堂のドーサ引雲肌和紙を、筆は大観御用達の徳応軒ものを、炭は科学系ではなく天然の龍雲など、一流のものを使用しました。

☆ワークショップ:「龍を描く」(第一回)

講師:佐藤志乃(横山大観記念館)

日本画指導:清水由朗(日本美術院) 永吉秀司(日本美術院)

日時:2018年1月19日(土) 13:00~13:30講演会

13:30~15:00日本画指導

参加者26名(当選者30名中)

会場:台東区上野区民館102号室

講演



日本画講義



日本画の基本的な画材



胡粉を練る様子



和紙の説明



制作指導



作画の様子



終了後の先生による講評



アンケート結果

回答人数 22名 男性9名・女性12名・不明1名

	20-30	30-40	40-50	50-60	60-70	70-80	80-
年齢	1	3	0	7	5	5	1

➤ どのようなきっかけで参加したか

ホームページを見て	知人に聞いて	台東区報	その他
5	5	10	0

➤ プログラムに対する感想

	◎	○	△	×
夢中でとりくんだ	18	3	1	0
楽しくとりくんだ	18	5	0	0
すぐにアイデアでた	4	4	8	5
自分だけのくふうができた	5	6	3	8

➤ 日本画に対する印象

墨絵だと思っていた	岩絵の具を初体験した	面倒な作業だった	思ったより簡単だった
9	7	0	0

その他 絹絵のイメージが強かったので驚いた・とても高度な画法・新鮮だった

➤ うまくできたこと

- ・自由に描いたこと(50代男性)
- ・構図はすぐ頭に浮かんだ(30代女性)
- ・龍の顔(70代女性)
- ・濃淡の出し方(60代女性)
- ・黒の濃淡は調整できた(30代)
- ・楽しくできました(60代女性)
- ・筆を使って描くこと(20代女性)
- ・あまりありませんでした(70代男性)
- ・一枚目でチャコペーパーで恐る恐るでも描いたので、2枚目は「あと10分」と言われてからフリーハンドで描けて達成感・楽しかったです(50代女性)
- ・カーボン紙でのコピー (でもつまらない) (50代男性)
- ・楽しく出来ました(60代女性)

➤ むずかしかったこと

- ・構図は頭に浮かんだが筆と墨の使い方が難しかった(30代女性)
- ・墨の濃淡の出し方が経験値不足だった(30代女性)
- ・龍がよくわからない(50代男性)
- ・墨の濃淡をだすのがむずかしい(60代男性)
- ・雲の書き方が思うようにいかなかった(30代女性)
- ・同じ濃さで書くのに慣れているので、表現の仕方が多様にあると思った(30代女性)
- ・にじますこと、筆使い・濃淡・非常に難しかった(30代男性)
- ・下手・時間が少なすぎた(80代男性)
- ・全体のぼかし、強弱が難しかった(70代女性)
- ・紙になれず苦勞して墨色が思うように出せなかった(70代女性)
- ・ぼかしなど思うようにできない。時間がなく一枚仕上げるのに精一杯でした(70代男性)
- ・ひげの細いラインが難しかった(60代女性)
- ・時間が無くて、力のない龍になってしまった(30代)
- ・墨の扱い方全般、ただそれが楽しくてまた描きたいです(20代女性)
- ・濃淡がうまく出なかった(60代女性)
- ・墨のぼかし(60代女性)
- ・最初どこから描き始めて良いのかわからずオロオロした。でも集中力が高まり、おかしくて楽しかった
- ・全部(50代女性)・思っていたことと、絵の仕上がりが全然違っていた(70代男性)
- ・絵筆を持ったのが40年ぶりだったのでとても苦戦した(50代男性)
- ・写すのに時間がかかってしまい、自分の工夫までたどり着けなかった(50代女性)
- ・時間がなくて残念(70代女性)
- ・ぼかしが難しい・濃淡(60代女性)
- ・濃淡の出し方が難しかった(70代女性)
- ・濃淡を出すこと(50代男性)
- ・墨で絵を描くむずかしさを知った。毛筆の使い方等やはりむずかしかったです(60代女性)

➤ その他・自由記述

- ・もう少し時間をかけて取り組みたい。次回又第2段としてやって欲しい(40代女性)
- ・ぜひ次回もお願いします(50代女性)
- ・時間を重ねたらもう少しまともに出来たような気がする。自分なりの龍を描きたかったが余裕がなかった(50代女性)
- ・もう少し時間が欲しかった(70代)
- ・横山大観の話が良かった(60代女性)
- ・とても面白い体験でしたが、大変難しかったです。ありがとうございました(40代女性)
- ・兎に角夢中で参加させていただきました(80代男性)
- ・ぼかしがうまく理解できなかった(60代男性)
- ・とても楽しい時間でした。また機会があれば体験したいと思う(60代)

☆ワークショップ「龍を描く」(第二回)

講師:佐藤志乃(横山大観記念館)

日本画指導:清水由朗(日本美術院) 永吉秀司(日本美術院)

木下千春(日本美術院)

日時:2018年1月27日(日) 13:00~13:30講演会

13:30~15:00日本画指導

参加者24名(当選者30名中)

会場:台東区上野区民館 402号室



講演



日本画講義



制作指導と作画の様子



終了後の先生による講評



アンケート結果

回答人数 17名 男性7名・女性7名・不明3名

	20-30	30-40	40-50	50-60	60-70	70-80	80-
年齢	0	0	3	4	6	3	1

➤ どのようなきっかけで参加したか

ホームページを見て	知人に聞いて	作家に聞いて	台東区報
2	3	2	9

➤ プログラムに対する感想

	◎	○	△	×
夢中でとりくんだ	11	3	0	0
楽しくとりくんだ	11	4	0	0
すぐにアイデアでた	1	2	7	4
自分だけのくふうができた	1	2	5	6

➤ 日本画に対する印象

墨絵だと思っていた	岩絵の具を初体験した	面倒な作業だった	思ったより簡単だった
5	2	2	0

その他 難しいが楽しかった・日本人としての教示

➤ うまくできたこと

- ・転写(50代女性)
- ・輪郭(70代男性)
- ・ラインを描く(50代女性)
- ・形を取るののとるのがとても面白く楽しくできた(60代女性)
- ・明暗はできたかな。ぼかしは初めての体験だった(80代男性)

➤ むずかしかったこと

- ・墨のぼかしがた(40代女性)
- ・何一つうまくできませんでした(50代男性)
- ・墨の濃淡・制作の全て(40代女性)
- ・濃淡(70代男性)
- ・ぼかせなかった(50代女性)
- ・ぼかしが難しい(60代女性)
- ・ぼかしが出来て無無く、筆跡が残ってしまいました(70代男性)
- ・墨絵は初めてだったので難しかったけど楽しかった(70代)
- ・墨の濃淡表現 (60代女性)
- ・筆のはこびがわからない。ぼかしが難しい (60代男性)
- ・全てです(40代女性)
- ・とにかく難しい(40代)
- ・ラインを描くのが難しい(80代男性)
- ・先生の教えがいまひとつ理解できなかった・時間が足りない(60代男性)
- ・何々思うどおりはむずかしい(60代)
- ・ぼかしがむずかしい (60代男性)

➤ その他・自由記述

- ・もう少し時間をかけて取り組みたい。次回又第2段としてやって欲しい(40代女性)

- ・ぜひ次回もお願いします(50代女性)
- ・時間を重ねたらもう少しまともに出来たような気がする。自分なりの龍を描きたかったが
余裕がなかった(50代女性)
- ・もう少し時間が欲しかった(70代)
- ・横山大観の話が良かった(60代女性)
- ・とても面白い体験でしたが、大変難しかったです。ありがとうございました(40代女性)
- ・兎に角夢中で参加させていただきました(80代男性)
- ・ぼかしがうまく理解できなかった(60代男性)
- ・とても楽しい時間でした。また機会があれば体験したいと思う(60代)

まとめ-----

講演会と実技からなる講演会は、大変好評で、参加者の日本画や近代日本美術に関しての知的興味を十分に満足させ、さらに新たな発見や知識を得られるものでした。

今回の企画に関しては、寺内遊神堂の協力も得て、大観が実際に使用した和紙を使って大観が描いた龍を手本にし、さらに大観が再興した日本美術院の先生方にご指導いただき、作画に使用する胡粉を練る、膠を溶かすといった実演なども行い、非常に質の高いものとなりました。これは、この実行委員会でなければ実施できないワークショップだったと言えます。

アンケート結果も好評でしたが、後日横山大観記念館に来館されたお客様からは「ワークショップが大変良かったから、ここに来たよ。これから湯島にご飯食べに行く」といったお言葉をいただきました。と非常に効果があげられたことが実感できました。

<「大観と贋作」講演会>

概要

横山大観記念館において開催される横山大観生誕 150 年記念展」に連動し、地域と近代日本文化の芸術性を国際発信するために多言語による「横山大観生誕 150 年記念講演会」を開催する。昨年の「横山大観の真実」を開催し好評だったが、今年度の題は「横山大観と贋作」として実施した。

横山大観生誕 150 年記念講演会「大観と贋作」

講師:横山浩一

日時:2018 年 10 月 28 日(日)13:00~14:30

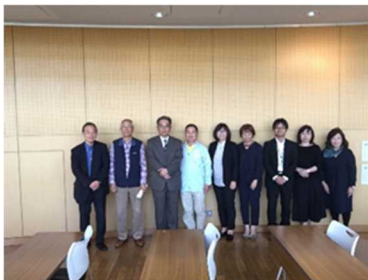
会場:上野区民館 402 号室

参加者:110 名

近代日本画と地域の魅力をより多くのかたに広め、発信するため、日本画の巨匠として有名な横山大観の鑑定人として活躍する横山大観のひ孫の横山浩一氏を講師に迎えて講演していただいた。昨年に引き続き、英語での通訳を交えながらの開催とした。

<講演内容についての別紙2参照>

講演の様子



(アンケート結果)

平成 30 年 地域共働近代日本文化国際発信実行委員会主催
上野の山文化ゾーンフェスティバル 参加プログラム

「横山」講演会 平成 30 年 10 月 28 日(日)実施

参加者合計110名(アンケート配布100名(除招待者)、回収85枚)

1、参加者年代 10代/無 20代/3 30代/3 40代/10

50代/6 60代/34 70代以上/25 不明4

2、性別 男/41 女/39

3、住まい 台東区/34 それ以外の東京/38 埼玉/2 千葉/6 神奈川/5

4、講演会を何で知ったか

上野の山文化ゾーンパンフ/23 上野の山文化ゾーンポスター/3

広報たいとう/10 台東区ホームページ 17

横山大観記念館のホームページ/18 口コミ 11

5、本講演会の他に立ち寄った、又は立ち寄る予定の場所があれば

上野公園(博物館/7・美術館/19・音楽ホール/2 その他/13)

上野公園以外の台東区内(上野/7 谷中/2 浅草/1 その他/3)

台東区以外/12

特に予定はない/19

6、本公演の内容について

良かった/65 まあまあ良かった/12 普通/2 良くなかった/1

7、ご意見・ご感想

*贋作ははじめて見て興味深い講演会でした(50代男性)

*講演会で文化的な香りに触れて楽しかった。(70代女性)

*混んでいて後ろの席だったのが残念だか、講師の方が回ってきてくれて嬉しかった。(70代女性)

*昨年とはまた違った話で、実際の作品が見れて面白かった。(60代女性)

*今後も企画お願いします(40代女性)

*身内の話が聞けて良かった。絵画がもう少し大きな画面でみたかった。(女性)

*英語の通訳でびっくりした。40代女性)

*2ヶ国語の講演ははじめてだったのでびっくりした。(60代女性)

*楽しい話であつという間に時間が過ぎた。(70代女性)

*スクリーンだけでなく、贋作の見本があつて興味深かった。(60代女性)

*説明もわかりやすく、視覚でもわかつて、良かったです。(70代女性)

*とても勉強になりました(60代女性)

*人物としての大観のお話がきくことができよかったです。絵を観るときに違った目線でみるものが

*画面が小さく見えにくい・・・(70代男性)

*画面がはっきり見えない・・・(70代男性)

*家族だから知る話なども聞けてよかったです。質疑応答もあつたらよかったです(40代女性)

*贋作はなんとか無くせないかと思う。(50代女性)

*もしも大観作品を買うことがあるなら、贋作には気を付けようと思いました。(60代男性)

まとめ

概ね高評価であり、今後に期待する声も多くいただけた。これらの結果から、大観生誕150年ということで、近代日本文化に多くの方が興味をもってもらったための取り組みは一定の成果が得られたと言える。しかしながら、今後も引き続き、地道にこのような取り組みを続けることが必要であると感じられる。

また、この講演会を聞きにくる際に、ほかの美術館や博物館を巡ってきたとか、これから巡るといふ人が多くいた。これにより、この地域への集客の一助となっていることがわかり、地域への貢献という面においても効果をあげたと言える。

Lecture	The Truth of Yokoyama Taikan		Prepared by:	Koichi Yokoyama
			date	
Résumé de la conférence Cette conférence présente l'ancienne résidence et le jardin de Yokoyama Taikan en tant que site historique et lieu de beauté scénique, ainsi que sa vie et son œuvre, y compris des épisodes avec des personnalités culturelles locales.		Lecture date 26-Nov-18 16:30PM~18:00PM Hotel Naporeon Paris France	The speaker Public Interest Incorporated Foundation Yokoyama Taikan memorial-hall Senior manager Koichi Yokoyama	
No	tytle	summary		
1	The very first story o			
2	1.1 Biographie	1-1 Taikan, l'un des maîtres de la peinture japonaise moderne, fut le premier diplômé de l'Université des Arts de Tokyo et le premier récipiendaire de l'Ordre de la Culture. Sur les 7 000 œuvres de son vivant, 1 500 étaient des vues du mont Fuji.		
3	1.2 Le changement de l'histoire moderne	1-2 En 1889, la Diète nationale se composait de deux chambres, et la chambre basse, composée à l'origine de la famille impériale et de la noblesse, appuyait l'art culturel.		
4	1.3 La naissance d	1-3 Le père de Taikan a développé une carte en tant que fonctionnaire du gouvernement local à Mito, mais a déménagé à Ueno à Tokyo avec sa famille quand Taikan avait 10 ans. Le lieu de naissance du Taikan est maintenant un bien culturel à Mito.		
5	1.4 TL'histoire d'Ueno pendant la Renaissance Meiji	1-4 Taikan a été inspiré par les changements à Ueno, où le premier parc au Japon, un zoo, un musée et une station ont été développés.		
6	1.5 Tokyo Junior High School	1-5 L'école de Taikan était l'une des plus difficiles à entrer au Japon. Koda Rohan, un écrivain japonais, était un voisin et un an au-dessus de Taikan dans la même école. Rohan et Taikan ont reçu l'Ordre de la Culture en même temps.		
7	1.6 Comment était	1-6 Selon sa femme et ses amis artistes, Taikan aimait les animaux, le saké et l'alpinisme. Il avait une grande connaissance et un grand sens de l'humour.		
8	1.7 Comment était	1-7 Il a obtenu la première place dans les écoles primaires et la troisième place dans les écoles secondaires. Ses parents voulaient qu'il devienne fonctionnaire.		
9	1.8 Le printemps à	1-8 Il a abandonné ses études à l'Université de Tokyo parce que sa candidature multiple pour l'architecture et l'anglais était contre la règle. Tout en apprenant l'anglais, il s'est intéressé à la peinture japonaise. A l'ouverture de l'Université des Arts de Tokyo, il décide d'étudier l'art.		
10	1.9 Rencontre avec Okakura Tenshin en 1889	1-9 Le maître Okakura Tenshin a étudié la différence des expressions en Europe et en Asie, et comment le japonais devrait exprimer l'art. Il s'attendait à ce que Taikan explore de nouvelles expressions. M. Tenshin a été le premier directeur de l'Université des arts de Tokyo et l'un des directeurs du Musée national. Il a interprété les collections asiatiques au Musée de Boston.		
11	1.10 L'engagement de Taikan envers l'art	1-10 Taikan s'est rendu compte que sa personnalité se reflétait dans son travail, et il a compris que la construction de la personnalité était nécessaire pour améliorer son expressivité et pour dessiner ses idéaux.		
12	1.11 Relation avec Mori Ogai	1-11 Le célèbre écrivain littéraire Mori Ogai a également été le professeur de l'Université des Arts de Tokyo. Il est devenu docteur en médecine militaire après avoir obtenu son diplôme de l'Université de Tokyo. Il a étudié l'art occidental en Allemagne. Sa base de travail en tant qu'écrivain était à Ueno. Taikan s'est inspiré de lui pour dessiner les couvertures de ses livres. Les brouillons ont été inclus dans la collection.		
13	1.12 Documents disponibles sur Ogai	1-12 Lorsque le chef-d'œuvre d'Ogai 'Maihime' a été publié, Taikan a écrit un projet de critique d'art et a dessiné Shinobazunoike comme couverture pour le livre 'Gan'.		
14	1.13 Le meilleur ami de Taikan, Shunso.	1-13 Il a rencontré son meilleur ami, Shunso, qui était un an plus bas à l'université. Beaucoup de ses œuvres ont été réalisées en collaboration avec Shunso. Il y avait un contraste entre la dynamique de Taikan et les peintures au toucher délicat de Shunso.		
15	1.14 Discours de remise des diplômes	1-14 Dans le travail de fin d'études de Taikan, tous les élèves regardaient leur professeur au centre, et il montrait sa technique : claire à l'avant et floue à l'arrière. Ce travail a remporté le 1er prix. Il a déclaré travailler à l'international pour introduire la peinture japonaise.		
16	1.15 Photo de fin d'études en 1893	1-15 Dans cette photo de fin d'études, nous pouvons voir des personnalités publiques distinguées.		
17	2 Les multiples activités			
18	2.1 Les multiples activités de Taikan	2-1 Comme les photographies en couleur étaient encore à l'étude à l'époque, la reproduction était une mesure d'enregistrement importante. Taikan a travaillé sur la reproduction tout en enseignant à l'Université des Arts de Kyoto. Le professeur Hashimoto Gaho lui a dit de ne pas travailler sur la reproduction à moins qu'il ne sente la véritable signification de l'œuvre.		
19	2.2 Parution de "Jakuiyou" et "Muga".	2-2 Peu de temps après son séjour à Kyoto, il a eu l'idée d'utiliser son nom de plume 'Taikan' signifiant 'pour paraître grand'. En ce temps de son travail, il a essayé d'exprimer le calme, le sens du printemps nouveau et le cœur pur d'un enfant en guenilles.		
20	2.3 La fondation de l'Académie des Beaux-Arts du	2-3 Le maître de Taikan, Tenshin pensait que l'Université ne suffisait pas à étudier l'expression de la peinture japonaise, et a créé un nouvel Institut de recherche, l'actuelle école supérieure.		
21	2.4 "Yanaka-uguisu" est l'origine d'Emoji ?	2-4 La chanson de l'école existe toujours. Tenshin a composé un poème et Taikan l'a écrit. Inclure un pictogramme doit être une technique moderne à l'époque, et montre le bon sens du design de Taikan.		

22	<u>2.5 "Kutsugen" en 1888</u>	2-5 Vent fort de la gauche, les yeux de confrontation des Kutsugen, deux ventres à suivre, et Chunlan à portée de main. L'enthousiasme de Taikan à l'époque de la création de l'Institut Japonais des Arts est bien illustré sur ce tableau. Cette œuvre est dédiée à Miyajima d'Hiroshima qui est un patrimoine culturel mondial.
23	<u>2.6 Attitude de recherche</u>	2-6 Taikan et ses compagnons partageaient un sujet commun et ont critiqué des œuvres individuelles. Ils vivaient tous dans le même quartier où l'école a été fondée, et leurs maisons s'appelaient à l'époque " Huit maisons ".
24	<u>2.7 Techniques de peinture : Styles de lignes et de flous</u>	2-7 Taikan et ses compagnons ont développé un nouveau style de peinture, mais ce style n'était pas accepté au Japon à l'époque.
25	<u>2.8 Visite en Inde en 1903</u>	2-8 Tenshin a rendu visite au prix Nobel Tagore en Inde pour étudier l'art asiatique. Il y envoya Taikan et Shunso comme peintre. Ils ont eu l'exposition et la vente là-bas.
26	<u>2.9 Mont Everest et Mont Fuji</u>	2-9 Taikan a visité le Mont Everest, et a réalisé la beauté du sommet du Mont Fuji. Après son retour au Japon, il a commencé à étudier la peinture du Mont Fuji dans plusieurs directions.
27	<u>2.10 Expositions à N.Y. et Boston</u>	2-10 Le style flou n'a pas été apprécié au Japon. En revanche, il a été accepté à N.Y. et à Boston comme l'impressionnisme japonais. La peinture japonaise et le jardin de Tensin sont toujours exposés au Boston Museum.
28	<u>2.11 Expositions à Londres et Paris</u>	2-11 L'exposition a été un succès. Tandis que Tenshin restait à Boston, Taikan et Shunso partirent pour Londres, où ils exposèrent et vendirent des tableaux. De retour au Japon, ils achetèrent de nouvelles peintures.
29	<u>2.12 Déménagement à Izura en 1906</u>	2-12 C'était l'époque de la chute de la peinture japonaise et de son ascension dans la peinture occidentale. C'était un mauvais moment pour l'Académie. Ils ont déménagé à Izura, et ont dépensé leurs fonds d'activité.
30	<u>2.13 Déménagement à Ueno après l'incendie</u>	2-13 La vie à Izura souffrait beaucoup, mais Tenshin les soutenait. Shunso a déménagé à Yoyogi pour sa maladie des yeux, et Taikan a déménagé à Ueno depuis que sa maison a été brûlée.
31	<u>2.14 Le 'Ryutou' de Taikan en 1909</u>	2-14 Taikan a aussi changé la façon de peindre. Pour la peinture, Lanterne, il a essayé que la lanterne se développe à partir de l'image et il a obtenu la bonne réputation de son travail. Son œuvre a été achetée par le ministère de l'Éducation et envoyée à l'Expo de Rome deux ans plus tard. me two years later.
32	<u>2.15 L'Ochiba de Shunso en 1909</u>	2-15 L'Ochiba de Shunso, le bien culturel important, a également été exposé à l'Expo. Il a également développé les feuilles tombées qui se ressortent de l'image. On dirait qu'on entend Taikan et Shunso se disputer à ce sujet.
33	<u>2.16 Biens culturels importants de 'Shousohakkei'</u>	2-16 Taikan a eu l'idée de ce travail lors de sa visite en Chine en 1910. Il s'est concentré sur les villageois plutôt que sur l'endroit pittoresque. En tant que journaliste, Souseki a souligné l'originalité de Taikan dans son article.
34	<u>2.17 Amitié avec Natsume Souseki</u>	2-17 Souseki Natsume était un romancier japonais. Son portrait est apparu sur le recto du billet de 1000 yens jusqu'en 2007. Souseki et Taikan étaient de bons amis. Le manuscrit de Souseki a été accroché au mur de l'atelier de Taikan, qui a été brûlé.
35	3 Nouveau cercle d'artistes	
36	<u>3.1 Nouveau cercle d'artistes</u>	3-1 Shunso et Tensin sont morts en 1911 et 1913, respectivement. Taikan a travaillé comme un leader de nouveaux artistes, y compris des artistes de la peinture occidentale. En 1914, il fait revivre l'Académie.
37	<u>3.2 Épouse Shizuko</u>	3-2 Taikan épousa Shizuko en 1911. Elle s'occupe des demandes et des commandes. Les commandes pour le Mont Fuji ont commencé à augmenter au cours de cette période.
38	<u>3.3 Tokaido Gojunsantsugi en 1915</u>	3-3 En 1913, Taikan et ses compagnons se sont rendus à Kyoto à pied, à cheval ou à bord de paniers plutôt qu'en train. Il a essayé d'expliquer son expérience à l'étranger.
39	<u>3.4 Visite de Tagore au Japon en 1916</u>	3-4 En 1914, Rabindranath Tagore, lauréat du prix Nobel, visita le Japon et séjourna dans la maison de Taikan. Taikan lui a présenté Yokohama Sankeien, Izura et l'art japonais.
40	<u>3.5 Biens culturels importants du Seiseiruten</u>	3-5 La longueur totale de cette photo est de 41m. L'eau qui coule du sommet de la montagne vers l'océan représente sa vie. Il l'a dessiné à l'encre qui lui a été donnée par les Tokugawa.
41	<u>3.6 Amitié avec Paul Claudel</u>	L'Ambassadeur de France au Japon, le poète Claudel, qui a travaillé dur pour établir la Maison franco japonaise, a visité la maison de Taikan. Taikan devint membre de l'association avec Kuroda et Fujita, et il continua d'évoluer constamment et réussit à exposer ses peintures à l'Exposition d'Art Japonais de Paris en 1929.
42	<u>3.7 La commande de la famille impériale</u>	3-7 Lorsque le prince héritier du Japon visita l'exposition en 1920, Taikan le guida. Beaucoup de ses œuvres ont été dédiées à la famille impériale.
43	<u>3.8 La commande de l'Impératrice Taisho</u>	3-8 En 1924, l'impératrice Taisho demanda à Taikan de dessiner son oiseau. Il a travaillé dur pour dessiner l'oiseau volant. Le tableau appartient à l'Agence Ménagère Impériale.
44	<u>3.9 La peinture de la porte coulissante du</u>	3-9 En 1929, un bureau a été établi à Nikko Toshogu, aujourd'hui classé au patrimoine mondial, et il a peint un tableau de portes coulissantes. Actuellement, le sanctuaire est ouvert en tant que musée.
45	<u>3.10 Exposition à Rome</u>	3-10 En 1930, l'Exposition de peinture japonaise a eu lieu à Rome sous le patronage du marquis Okura. Comme Taikan l'a guidé et expliqué au président Mussolini. Taikan a consacré du temps à la décoration intérieure pour exprimer le Japon en utilisant de l'encens et en exposant son propre kimono design offert à Shizuko .
46	<u>3.11 Le secret de 'Yozakoura'.</u>	3-11 Les cerisiers la nuit ont été exposés avec l'image de la nuit de printemps à Kyoto, qui a été déformée pour le peuple italien.
47	<u>3.12 Reçoit l'Ordre de la Culture en 1937</u>	3-12 En 1937, Taikan a reçu le premier Ordre de la Culture. Au même moment, le Japon est entré dans un régime de guerre.
48	<u>3.13 Exposition de 'Umiyamajuidai' en 1940</u>	3-13 En 1940, Taikan reçut de plus de 10 commandes de peintures de montagne et de mer de l'armée, et toutes les ventes furent présentées au gouvernement pour acheter des avions de combat.

49	4 Vers une nouvelle ère	
50	<u>4.1 Vers une nouvelle ère</u>	4-1 En 1945, Taikan a perdu tout son matériel et ses œuvres lorsque sa maison a été détruite par un raid aérien. Il a vécu à Atami pendant 9 ans jusqu'à ce que sa maison soit reconstruite.
51	<u>4.2 "Shiji-sansui" en 1947</u>	4-2 En 1947, Taikan a peint les magnifiques paysages qu'il a visités sur un rouleau de tableaux pour envoyer un m
52	<u>4.3 Demande de peinture du Mont Fuji</u>	4-3 De nombreuses commandes pour le Mont Fuji provenaient du Cabinet, du Ministère des Affaires Etrangères et des bureaux administratifs après la guerre. Le "Hakushaseisho" pour le Président Sukarno en Indonésie représentait l'amitié.
53	<u>4.4 "Fuji ni kumo" et "Fuji ni sakura" à la gare de Tokyo</u>	4-4 Il y a deux morceaux du Mont Fuji dans le bureau de l'agent de la gare de Tokyo et dans sa chambre d'hôte. Taikan les a dessinés parce qu'il a été ému par le modeste bureau.
54	<u>4.5 Aruhino Taiheiyou' en 1952 (un jour en Océan)</u>	4-5 Cela représente la période d'après-guerre de 7 ans. Le déferlement des vagues exprime la guerre, le dragon se décrit lui-même ou japonais, et les yeux tournés vers le sommet du mont Fuji. Le marquis Asano est devenu directeur du Musée national d'art et Taikan a fait don de certaines de ses œuvres.
55	<u>4.6 Reihouhikaku en 1953.</u>	4-6 Lorsque la maison de Taikan a été reconstruite, il a utilisé de nouvelles peintures pour dessiner une chambre d'amis. Les grues semblent s'envoler hors de l'écran vers une nouvelle ère. Je me souviens d'avoir installé cet écran chaque Nouvel An à la maison quand j'étais petit.
56	<u>4.7 Hosokawa Moritatsu et Asano Nagatake</u>	4-7 En 1955, le 88e anniversaire de Taikan ainsi que ses réalisations et sa contribution passées ont été célébrés. Parmi les invités figuraient le marquis Hosokawa, le marquis Asano, le baron Okura et le premier ministre Hatoyama.
57	<u>4.8 A gift from Taikan's fellows</u>	4-8 Puisque le symbole Zodiaque chinois de Taikan était le dragon, tous les jeunes peintres ont dessiné des dragons individuellement, et ont fait un tableau en rouleau pour un cadeau d'anniversaire.
58	<u>4.9 A gift from Taikan's fellows</u>	4-9 Taikan est mort à l'âge de 89 ans. Il dort à côté de la famille Hatoyama au cimetière de Yanaka. Le cerveau de Taikan a été donné à l'Université de Tokyo.
59	<u>4.10 Shizuko a repris la volonté de Taikan</u>	4-10 Cinq ans après sa mort, je suis né le jour de l'anniversaire de sa femme Shizuko. Tous ses amis artistes se réunissaient tous les jours du Nouvel An chez lui, et parlaient des grands jours de la vie de Taikan.
60	<u>4.11 La mise en place du Yokoyama Taikan Memorial</u>	4-11 En 1976, Shizuko meurt. Le couple souhaitait fortement utiliser sa propriété pour le développement de la peinture japonaise. Cela fait 40 ans qu'il a fondé la salle commémorative. En février 2017, la salle commémorative a été désigné site historique au Japon.
61	<u>4.12 Remarques de clôture</u>	4-12 L'exploration de l'histoire de la peinture japonaise moderne mène à l'attitude de recherche et à la communication sur l'expression parmi les personnes ayant des intérêts et des aspirations communs. Il n'y a pas de différence entre l'art et la littérature en termes d'exploration de nouvelles expressions. Grâce à une profonde compréhension des supporters, beaucoup de leurs chefs-d'œuvre existent encore. Leurs activités se sont principalement déroulées à Ueno. Je crois que passer en revue les conversations des artistes à travers leurs œuvres et parler d'eux aide à transmettre notre culture aux générations futures.

別紙2

Lecture	Yokoyama Taikan and His Fakes	Prepared by:	Koichi Yokoyama
		Date	

Lecture Summary As part of introducing the attractiveness of the 'Former Residence and Garden of Yokoyama Taikan' which has been designated as a national historic site and a place of scenic beauty, the lecture reveals the true attractiveness of genuine works of Yokoyama Taikan by showing the numerous fake paintings that exist.	Lecture Date and Time 28-Oct-18 1:00PM - 2:30PM Ueno Residents' Hall 401	Lecturer Senior Manager Yokoyama Taikan Memorial Hall Koichi Yokoyama
--	---	---

No.	Title	Summary
1	<u>1. Yokoyama Taikan and His Fakes</u>	When tracing the footsteps of Taikan as a painter, it is easy to understand his devotion to study nihonga (Japanese-style painting), his adventurous spirit which took him overseas, how he built sincere relationships with his peers, and how he made effort to publicize his works. However, widely-appreciated works have created many fakes at the same time.
2	<u>2. Short Biography of Yokoyama Taikan</u>	Taikan is a man full of "first" to do, win awards, etc., which indicates that he always took progressive approaches towards his painting career. Two of his works are designated as important cultural properties and more than 1,500 pieces using Mt. Fuji as the subject continue to attract many of his fans.
3	<u>3. What are Genuine Works?</u>	Unlike Taikan's works that can be viewed at exhibitions and in collection books, his works owned by individuals which are not available for viewing also possess much fascination. To date, it has been confirmed that more than 7,000 works exist, which means that, either small or large, Taikan completed a painting once every three days.
4	<u>4. What are Imitations? (other than Genuine Works)</u>	Both fukuseiga (replicated paintings) and kogeiga (reproduction paintings) were first espoused by Taikan. Fukuseiga are prints for decoration and/or research using printing techniques whereas kogeiga, introduced in the early 1930s, are printed reproductions retouched by specialist painters using media similar to those in the original works. It seems that fakes were created and black-marketed as the attractiveness of nihonga was disseminated nationwide. Taikan himself authenticated his own works and knew about fakes.
5	<u>5. What is Authentication?</u>	Even now, authentication is conducted to identify works as genuine or fake, when there is a change in ownership.
6	<u>6. Judgement on Authenticity</u>	There are no documents to certify genuine or fake and it is only written on the receipt. In the case of genuine works, authentication numbers are issued and recorded for future re-authentications.
7	<u>7. Authentication Number</u>	This is a photo of the framed genuine work actually being auctioned and the authentication number on the back. Actual prices will not be referred, but it is said that the price of this piece starts at 20 million yen. Size 1 is close to the size of a paperback and prices increase by 1 million yen per size.
8	<u>8. Authentication Registry</u>	Authentication started just after Taikan's death. This is a photo of the first authentication registry. All possible measures, including taking photos, replicating, and recording stains, are taken to ensure authenticity.
9	<u>9. Why Genuine Works are Attractive-1</u>	Policy speech made by Taikan at graduation of Tokyo Fine Arts School still exists. His will to develop new ways of expressing himself can be perceived and learning techniques from exhibited works is one enjoyable way to appreciate genuine works.
10	<u>10. Why Genuine Works are Attractive-2</u>	Taikan's wife was responsible for receiving production requests. Taikan looked at the potentials of the personality of his clients and reflected them to the requested works, so owners keep them for generations, which is why Taikan's works are not seen as much in the art market. Here, the hidden attractiveness of genuine works will be introduced.
11	<u>11. Discovering New Attractiveness-1</u>	This piece was displayed for the first time at the Taikan Exhibitions held this year. It was discovered and authenticated 3 years ago, but it was chosen for exhibition because the colors and lines were restored and it was considered as a new challenge of nihonga.
12	<u>12. Discovering New Attractiveness-2</u>	When Taikan was painting the piece that was discovered 3 years ago, it seems that he was testing to draw the deity of mercy from his experience in India. He is painting in great detail, but the number of fingers is not correct. Don't you think you can feel close to the playful, humorous Taikan when you encounter one of his "silly" works?
13	<u>13. Discovering New Attractiveness-3</u>	This is a pair of hanging scrolls painted by Hishida Shunso and Taikan. They both drew in the same sketchbook and the works were mounted as hanging scrolls. Shunso's son and Gokura Senjin authenticated it before authentication by the Yokoyama family. It is well known that Shunso and Taikan were best friends and the creative positioning of their signatures shows that as well.
14	<u>14. Discovering New Attractiveness-4</u>	The paper strip with a poem made by Takahama Kyoshi about the mother of Masaoka Shiki has a drawing by Taikan. It can be said that interacting with literary figures was important for Taikan to explore new ways to portray his ideas.
15	<u>15. Replicated Paintings and Reproduction</u>	As the audience starts to understand Taikan's spirit, even fukuseiga and kogeiga can enrich their minds. How about enjoying memorable works while looking back at the time between the Meiji era of primitive photographic techniques and the present day where color photos are easily available?
16	<u>16. Keys to Judging Authenticity</u>	Seals and signatures vary according to paintings and the time they were created. The positioning of the seal is also considered as part of the layout. It has also been confirmed that mounting procedures and boxes also differ depending on producers and periods.
17	<u>17. Slide Show of Fakes</u>	Malicious fakes that have been recorded during the many years of authentication will be introduced in a slide show.
18	<u>18. Features of Fakes</u>	A large number of pieces that have been made after a full study on fake authentication numbers, fake certificates, and fake seals are seen in the market. Authentication before purchasing is recommended.
19	<u>19. Commentary on Fake Samples</u>	A real fake piece that is kept at the Memorial Hall. When works are judged as fakes, no one comes to pick them up. Some foreigners continue to claim that the pieces they own are genuine.
20	<u>20. Initiatives of PR Activities for Nihonga (Japanese-style Paintings)</u>	When media such as movies/TV/radios did not exist, exhibitions/literature work/theatergoing would have been events people eagerly looked forward to than those of present times. Therefore, performers/artists/writers were more serious in creating their works.
21	<u>21. Main Supporters</u>	As Taikan gained new ideas from literature, etc., attractiveness of nihonga had been disseminated by activities to expand the audience such as department stores providing venues; former feudal lords making investments and introducing purchasers; and donating artwork to publishers, newspaper companies, securities companies, and shrines.
22	<u>22. Questions to Audience</u>	Do you find genuine works to be attractive? Do you find fakes to be attractive?
23	<u>23. Upcoming Events</u>	(1) The government-designated building and garden designed by Taikan can be visited and enjoyed. (2) An event is planned also in Bunkyo-ku as part of the honoring project. (3) Preparations are underway for the exhibition of the masterpiece collection of the Memorial Hall to be held next spring at Takashaya Department Store.
24	<u>24. Slide Show of Genuine Works</u>	Among the photos taken as records of authentication, a slide show of works that have not been introduced to the public will be shown.